

ICT“みらい”プロジェクトとは…

み

みんなできる

ら

らくにできる

い

いつでもできる

をテーマにICTを『日常的に活用する』ためのプロジェクト！

み みんなできる

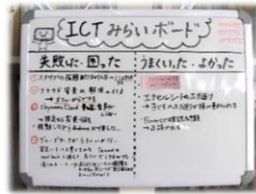


校内研修の充実

外部講師を招いた研修、企業による実践型のハンズオン研修、校内の教員によるミニ研修などを重ねることで、教員の力量向上を図った。

「ICTみらいボード」の活用

ICTの苦手意識は、使用する際の小さなつまずきから生まれることが多い。ICTみらいボードを活用し、日頃から情報共有できるようにした。



教員同士の教え合い



放課後には、教員同士で、授業に活用できそうな新しい発見や便利な方法を教え合った。

オンライン朝礼

朝礼を Teams の会議で実施。回数を重ねることで、どの教員もスムーズに使えるように。



授業

教師の力量向上！



課題

自分の考えを述べたり、深めたりすることが難しい

さらに！

オンラインでのインタビューも

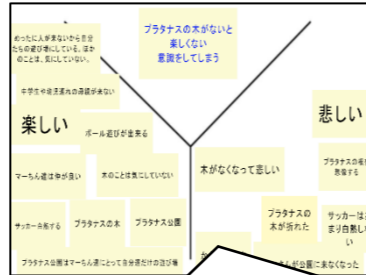


見学ができない場合は、オンラインでインタビューを行った。

ICTを効果的に活用した実践例

主に協働的な学びの実現

協働学習に使う



思考ツールの活用 (SkymenuCloud)

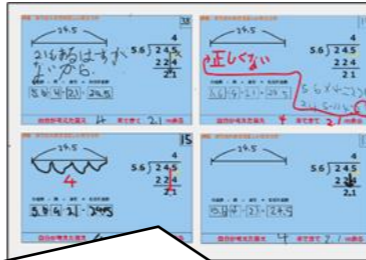
Yチャートを活用し、自分の考えを書き込んだ後、グループワークで考えを集約。付箋形式で、言葉を移動することができるため、考えを深めるのに有効。

自由に言葉を移動できるので、思考を整理しやすい！

考えの共有に

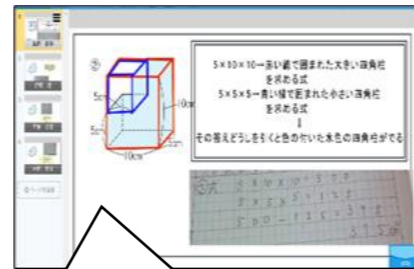
共有ツールの活用 (Teams)

あらかじめ作成したワークシートを Teams の Whiteboard に配付し、各自が考えを書き込んで、説明を合した。考えの比較に有効。



同時に作業ができるため、友達の考えを参考にすることもできる。

対話の手だてとして



機能の有効活用 (SkymenuCloud)

図形を提示したワークシートを配付し、児童は考えを書き込んだり、ノートの写真を貼り付けたりして、考えを発表し合した。機能を使い分け、児童主体で対話したり、工夫して分かりやすく説明したりする活動に有効。

簡単に、線の色分けをしたり、描いたり消したりすることができるのも、ICTの魅力のひとつ！

☆使っていくうちに、便利さを実感できるようになる☆

- 児童同士で考えを比較することが簡単にできる！
- 投影機能を使うと、一人の考えを全体に共有できる！
- 保存したデータを使って、調べたことや自分の考えを振り返ることができる！
- 習熟度に合わせて、個別に学習を進めることができる。
- 考えを書いたり消したり簡単にできるから、考えを整理しやすく思考力が高まる！
- プリント作成の負担軽減にも！

主に個別最適な学びの実現

自己調整に使う

AI型ドリル教材の活用

知識・技能の定着や隙間時間の利用を図り、AI型ドリル教材を活用した。各自のレベルやペースに合わせて取り組むことができるため、児童の自己調整力の向上に有効。



手書き入力なので、低学年でもできる！

共通理解を図る

拡大提示の活用

教材を拡大提示し、同じ場面について、学級全体で意見を交流し合った。文章の読み取りが苦手な児童も、提示された挿絵から、想像することができ、全体での話し合いに有効。



大画面だから、世界観を共有しやすい。

考えの再構築を助ける

データ保存の活用

調べた文献の内容や、作成した発表ノートを保存し、単元の中で繰り返し確認しながら、文章構成を考えた。友達の助言も生かして、より分かりやすい文章構成に改善した。考えの再構築に有効。



画面で自分の考えを整理し、伝えることができる。



また、実験したときや完成した作品を画像で残しておくことで、予想を立てたり、振り返って新たな発見につなげたりすることもできる。学級やグループで共有すれば、いつでも見たいときに見ることができる。

画像データはほぼ永続的に保存がきき、いつでも閲覧可能なため、単元、教科、学年をまたいで活用できる。

「ここで試しに使ってみよう！」が第一歩。



らくにできる

校務のICT化



職員会議は Teams の共有ファイル、行事反省や児童の欠席連絡は Forms で行うことにした。

理想の児童像

自ら問いや課題を見だし、深い学びを実現する児童

いつでもできる

日常の中で活用



ICT 端末が児童にとって学習するための一つのツールとなるよう、授業中だけでなく、休み時間や持ち帰っての活用を推進。必要だと感じれば、いつでも児童が使えるようにした。

連絡帳の記入や一日の連絡は、ICT 端末で確認できる。持ち帰ってあれば、欠席した場合も児童は家庭で確認できる。

机上の整理・文房具



ICT 端末は置き場所を決めて机上を整理。筆箱などと同じように、基本的に机上にあるようにしたことで、授業ではいつも使うという意識が児童の中に定着した。

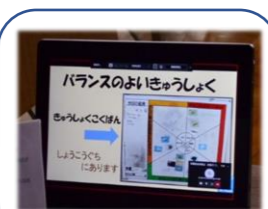
児童の力量向上!



ICTの日常化



委員会キャンペーンの広報



教員も児童も、ICT 端末の活用に慣れ、利便性に気付き、授業以外での ICT 活用を積極的に行うようになった。学校全体で ICT の日常化を図った。

ICTを“みらい”に広げる ICT “みらい”プロジェクトの成果

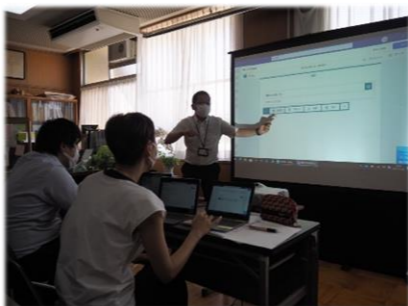
児童の姿

- ICT 活用の力量向上にむけた意欲の高まり
- 課題解決への前向きな取組
- 自己調整力の向上
- 活発な意見交流の実現
- できた! わかった! を実感
- 協働学習による学びの深まり

ICT活用の日常化



教員集団としての力量向上



教師の姿

- 前向きな学び合いの実現
- 個別学習への有効活用
- A I 型ドリル教材の有効活用
- 情報共有や協働学習への有効活用

保護者の声

- 休みの日に、ICT 端末を使って、問題を解いて理解しようとしていたので、使い慣れているなど感心した。
- 親自身でも、ICT 端末の活用目的、様々な効果、活用法等を調べたいし、もっと知りたいと思う。

ICT の効果的な活用による深い学びに向けた実践を通して、教員はごく自然に ICT の活用を、授業の手だてとして取り入れられるようになったことが大きな成果です。また、学習ツールとして日常的に使用することで、児童も学習や学級活動、委員会活動において、ICT 端末を効果的に活用できるようになりました。その結果、児童が前向きに課題解決に取り組むことができるようになり、意見交流の活発化、学びの深まりにつながりました。今後は、深い学びだけでなく、基礎学力の定着も含めて ICT 教育の実践を継続し、児童が予測困難な社会を生き抜くための力を培っていきたいと考えています。

指導助言者 (50音順)

- 石川 明 (岐阜市教育委員会学校指導課 G I G A スクール推進室)
- 清水 茂 (中部大学現代教育学部 非常勤講師)
- 玉置 崇 (岐阜聖徳学園大学教育学部 教授)
- 丹下 悠史 (愛知東邦大学人間健康学部 助教)

研究主題

自ら問いや課題を見だし、深い学びを実現できる児童の育成
— ICT を活用した個別最適な学びと協働的な学びを通して —

稲沢市立牧川小学校

本校は、愛知県より委嘱を受け、ICT 活用教育推進事業に取り組んできました。自分の考えを述べたり、対話を通して他者と自分の考えと比較して考えを深めたりすることが苦手な児童が多いという実態から、ICT の活用を通して、自分の問いや課題を解決できる児童の育成を目指し、研究主題を設定しました。

しかし、授業の中で ICT を有効に活用するためには、教員や児童が ICT を日常的に使用できなければなりません。その点において、本校には大きな不安がありました。そこで、まずは、教員が ICT 端末に慣れることから本実践を行うことにしました。教員の力量向上と児童の力量向上を図りながら、並行して授業実践を行うことで、課題解決を目指しました。ICT の日常化を図ることは容易ではありませんでしたが、教員が一丸となって取り組んだことで、教員、児童ともに、ICT の活用に慣れ、深い学びの実現に近づくことができました。



G I G A スクール、一人一台端末、Skymenu、Microsoft...
何からどう手をつけたらいいの??
そもそも、ICT が苦手なのに、授業で使うなんて、不安すぎる。
低学年では難しいかなあ。



- ICT って慣れるとすごく便利!
- 使うと、こんな効果があるんだ!
- 1年生でも、できることが結構あった!
- 文房具の一つになってきた!
- 授業の選択肢が広がった!

